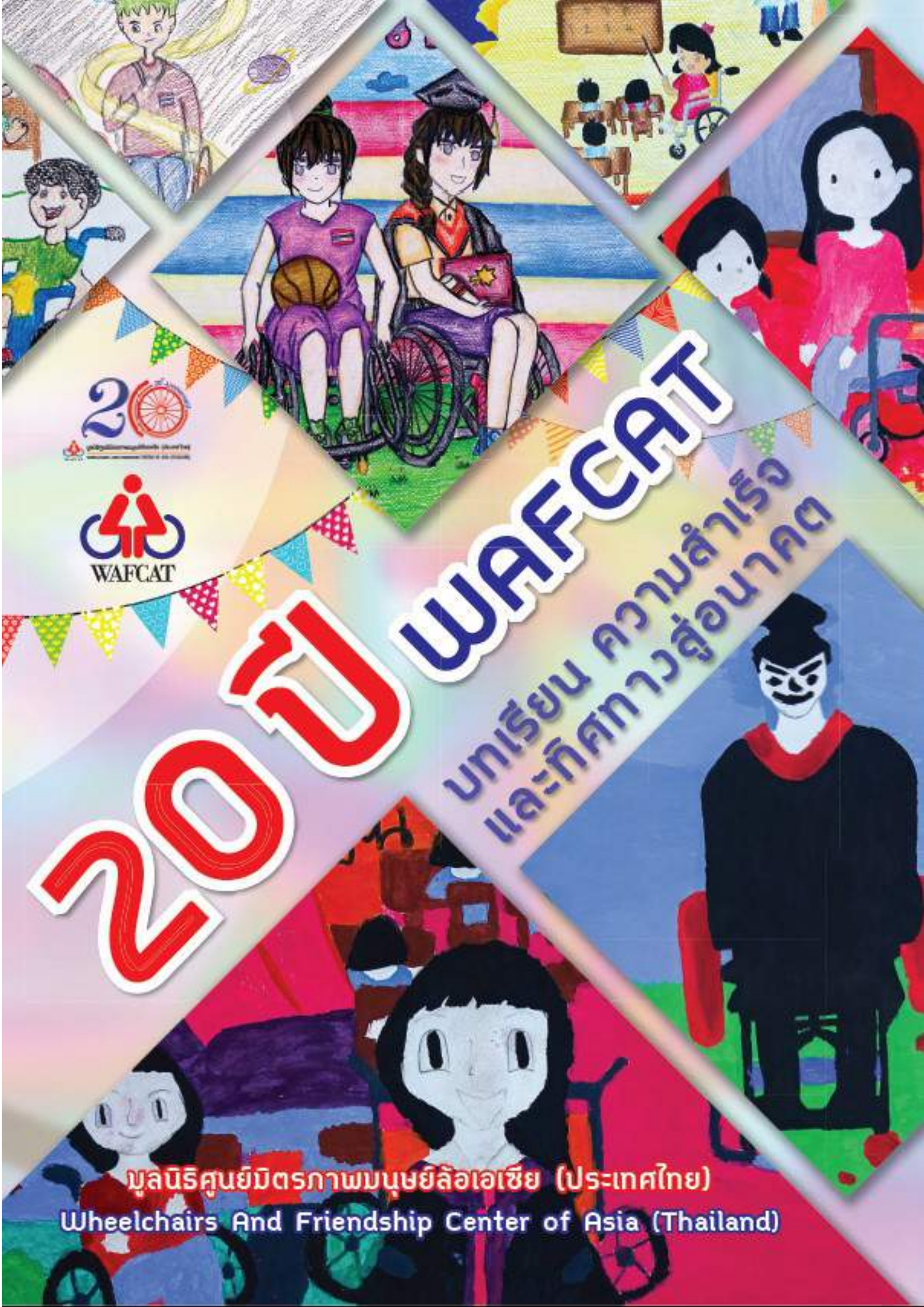

20
WAFCAT
20 ปี WAFCAT
บทเรียน ความสำเร็จ
และทิศทางสู่อนาคต
มูลนิธิศูนย์มิตรภาพมนุษย์ล้อเอเชีย (ประเทศไทย)
Wheelchairs And Friendship Center of Asia (Thailand)

CONTENT

目次

背景 3

ビジョン・ミッション 3

WAFCAT：「障がい児の生活の質における向上プロセス」 4

経験：「地域レベルの活動から・・・ネットワーク作りと政策提言まで」 5

成功事例：「地域レベルの活動から・・・ネットワーク作りと政策提言まで」 7

1. 先生、学校は障がいのある子どもを受け入れてくれますか？ 8

2. 障がい児ドリーム＆フレンドシップキャンプ

「インスピレーションから叶えた夢」 9

3. 世界が広がり、大学の入り口へ 10

4. 諦めなかったから今日の私になれた 11

5. ネットワークの力、安定した歩み 12

6. 車いすサービスセンターのモデル、叶えた夢 13

7. 車いすの人のためのボランティア 14

成果のまとめ：「地域レベルの活動から・・・ネットワーク作りと政策提言まで」 15

成功の要因 18

将来の活動の方向性 19

Background

背 景

アジア車いす交流センター（タイランド）WAFCAT は 1999 年に日本の株式会社デンソーの創立 50 周年を記念し、企業の社会的責任（CSR）事業の一環として設立されました。WAFCAT はタイ財務省の 550 番目の慈善団体（財団法人）として承認されました。WAFCAT の活動は非営利で、目的は身体に障がいのある者にサポートを提供することです。

VISION & MISSION

ビジョン・ミッション

WAFCAT は車いすの普及活動や教育を通じて、障がいのある子どもたちが社会で自立できる環境づくりを目指しています。また、ボランティアの参加を促し、バリアのない社会や社会意識の実現に貢献します。

WAFCAT

障がい児の生活の質における向上プロセス

Input

1. 車いすサービス
2. 教育サポート
3. バリアフリー社会
4. ボランティアの参加
5. 社会意識

Process

1. 車いすの提供
2. 障がい児向けの奨学金、交通費、寮費、文具や教材費、能力開発活動
3. 自宅や学校の設備改善
4. ボランティアによる車いす修理メンテナンス
5. 車いすバスケットボール、セミナー、広報活動

WAFCAT は、各学校、地方教育事務所、特殊教育センター、その他のネットワークを通じて作業を進める。

特殊教育センターとの協働

WAFCAT は障がいのある子どもに車いすを提供したり、自宅をバリアフリーに改善したりするために特殊教育センターに連絡する。

特殊教育センターの役割

障がいのある子どもを調査し、WAFCAT に報告する。

学校との協働

WAFCAT は障がいのある子どものニーズを調査するために、学校や地方教育事務所に連絡を取る。

学校の役割

障がいのある子どものニーズ調査や選考を行い、WAFCAT に提案する。

OUTPUT

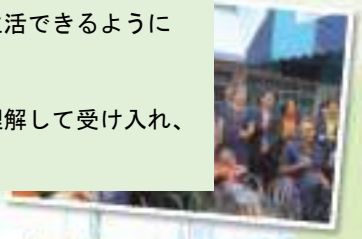
- 3,500 人の障がいのある子どもたちに車いすを提供した
- 250 人の障がいのある子どもたちに奨学金を提供した
- 44 人の障がいのある子どもたちに教育や能力開発セミナーを提供した
- 30 人の障がいのある子どもたちに自宅バリアフリー改善をした

OUTCOME

サムットプラカーン県車いすサービスセンターの開設

- 障がいのある子どもが自由に生活できるようになった
- 障がいのある子どもを家族が理解して受け入れ、成長に介入するようになった

Impact



経験

「地域レベルの活動から・・・ネットワーク作りと政策提言まで」

ナロン・パティバットソラキット氏

WAFCAT の初代理事長（1999 年～2009 年）

「教育によって、障がいのある子どもは自立し、社会に認めてもらうことができるのです。WAFCAT はとくに地方の障がいのある子どもに車いすを提供しています。タイには、障がい者に車いすを提供する法律があっても、子ども用の小さな車いすが足りないため、我々がそれをサポートしています。もし障がい児が自分の障がいに適した車いすを利用できれば、教育にアクセスできて自由に生活できるようになると信じているからです。」

政岡勲（まさおか いさお）氏

WAFCAT 初代事務局長（1999 年～2005 年、副理事長 2006 年～2015 年）

「WAFCAT は、障がいがあってもなくても、我々には生きる権利が平等にあることを強く信じています。障がい児が普通の子どものように生活できるようにするために、車いすを動かすこととバリアを取り除くことが非常に重要です。

私は国連国際障がい者デーである 12 月３日に生まれました。障がい者が権利や尊厳を持って生きるために、彼らを手助けする仕事に携わる運命だったように思います。生まれながらに皆平等に権利や尊厳があるできなのです。」

スポーンタム・モンコンサワット氏
WAFCAT 理事長（2009 年～現在）

『最初の 10 年 1999 年～2009 年：マクロレベルもミクロレベルも』

「マクロレベルでは、車いすバスケットボールを通して障がい者も社会の中で平等に共存するための理解向上を目指しました。さらに、タイ・ウィール工場を設立して手頃な価格で質の良い車いすを生産することで、障がいのある子どもに適切な車いすを提供しました。

ミクロレベルでは、まだ取り組んでいる団体が少ない車いすをサポートするシステムの構築を目指しています。それは、障がい児一人ひとりの希望に合わせてサイズを測ったり、モニタリングして修理メンテナンスしたりするシステムです。これはスタートしたばかりで、はっきりとした成果はまだわかりません。」

『2010 年～2019 年：フィールドの仕事とネットワークを生かして推進』

リハビリテーションにアクセスするために、まず自分の障がいに合った車いすが手に入ることを目標にしました。次にどうやって教育にアクセスできるのか、とくに仕事につながる教育を受けられるかが重要です。

他団体とのネットワークも増えました。WAFCAT は WHO が提唱する『資源が少ない地域での手動車いすサービス』を障がい児と家族を対象に行っていましたが、シリントン国立医療リハビリテーション研究所Sirindhorn National Medical Rehabilitation Institute(SNMRI)を通じてタイ保健省も協力してくれるようになりました。

教育の面では、農村部の自治体、健康センター、各県の特殊教育センターなど、障がい者に関する団体の仕組みを利用して協働しています。

成功のケーススタディー「地域レベルの活動から・・・ネットワーク作りと政策提言まで」

1. 先生、学校は障がいのある子どもを受け入れてくれますか？

2. ドリームフレンドシップキャンプ「インスピレーションから叶えた夢」

3. 世界が広がり、大学の入り口へ

4. あきらめなかったから今日の私になれた

5. ネットワークの力、安定した歩み

6. 車いすサービスセンターのモデル、叶えた夢

7. 車いすの人のためのボランティア

1 先生、学校は障がいのある子どもを受け入れてくれますか？

グラビバット・クーハーナー君（愛称パーティー）

現在 7 歳のパーティー君は重症筋無力症で歩けないため車いすを使っています。しかし、自分で日課をこなすことができます。パーティ君はおばあさん地元の自治体で働いているお母さんと暮らしています。WAFCAT と特殊教育センターがパーティ君に車いすを提供して、学校に行くことを勧めた後、おばあさんがバーン･サアートネーングン学校に連絡して校長先生が小学校１年生に入学させてくれました。パーティ君はすぐに友達と仲良くなれました。

2019 年 11 月 WAFCAT と特殊教育センターのモニタリングにより、学校ではスロープと障がい者向けのトイレがまだないと分かりました。WAFCAT はトイレに手すりを付けて、教室からトイレまでのスロープを作る予算を提供しました。学校は地域の人々と相談して、これらの設備を作るための地域のサポートを得ることができました。

2

ドリーム　フレンドシップキャンプ
「インスピレーションから叶えた夢」

ウィナッダー・チャロエンシリさん（愛称ウ）
パッタヤー・プラマハータイ・テクノロジー専門学校　2 年生

ウさんのお母さん：「ウは両足と片腕がなく、残る腕にも小さな指が 2 本しかない状態で生まれました。私は、ウが生まれたあと、兄姉合わせて 5 人の子どもを連れてブリーラム県に逃げました。お父さんが自分の子どもに障がいがあることを認められなくて、自分の子どもにどうしても消えて欲しかったのです。」

ウちゃん:「これです…ヒーローである私の母…子どもたちのために何でもできるお母さん。チュムチョンワットチュムポーン学校に通っていたとき、お母さんがいつも送り迎えしてくれました。この学校の友達たちはとても優しかったです。色々な教室にいつも抱っこして連れて行ってくれました。とくに、タナーコーン先生は、「先生、いつ子どもができたの？」とからかわれるほど、いつも色々な活動に抱っこして連れて行ってくれました。毎晩、先生は美術を教えてくれて、私は絵を描くことが上手になれて、書いた絵も売ることもできました。

中学生のとき、私は高校へは進学を諦めていましたが、WAFCAT がパッタヤー・プラマハータイテクノロジー専門学校で開催した「ドリーム＆フレンドシップキャンプ」がきっかけで、この学校に進学する自信になりました。現在は、この学校でコンピュータービジネスを専攻しています。将来自立した生活を送りお母さんの面倒を見るために、就活する準備をしています。」

ウちゃんのお母さん：「WAFCAT には、ウに対して車いす、奨学金、交通費、生活費など、いつもサポートして頂いて本当にありがとうございます。」

3 世界が広がり、大学の入り口へ

ワーニサー・ジットラパンヤーさん（愛称ドリーム）
ウボンラチャタニ・ラーチャパット大学　1年生

ドリームさんは MYASTHENIA GRAVIS という治らない重症筋無力症で子どもの頃から歩くことができません。学校には通っていましたが、小学校 4 年生になったときに自力で生活できなくなりました。そこで、先生は中学校 3 年生まで勉強や試験を自宅でさせてくれました。その後、テクノロジーエン・テクインターナショナル職業高等学校に進学して、さらにノーンカイ県パッタヤー・プラマハータイテクノロジー高等専門学校に進みました。

高等専門学校 2 年生のときに、ドリームは WAFCAT で 2 ヶ月インターンシップをしました。インターンシップで自信をつけ、その後 2～3 校の大学に申し込み、ウボンラチャタニ・ラーチャパット大学の人文社会学部の英語プログラムに進学することができました。大学、教授、友達、先輩たちのサポートでドリームは大学で幸せに生活しています。車いす用のスロープ、障がい者用トイレをはじめとする障がい者にもやさしい大学の環境作りのため施設を改善することが大事です。

ドリームさん:「私は自由に生活できて、友達たちと問題なく活動できています。」

4 あきらめなかったから今日の私になれた

アナンタチャイ・シーサアート君
（愛称オーム）

オーム君は、生まれつき重症筋無力症のため、自分で生活することができません。そのため、おばあさんは心配してオーム君を学校に行かせたがりませんでした。しかし、オーム君はできるだけ教育を受けたかったので、彼は家の近くにあるワットベンヤパート幼児園に申し込むようお母さんにお願いしました。校長、先生、友達たちがオーム君のことを認めて中学校までサポートしてくれたので、中学を卒業することができました。

「障がいがあってもなくても、子どもの機会と権利は一緒です。我々はみんなに平等に機会を提供しています。」とワットベンヤパート学校の校長であるジュララック・ウィチャー氏は言いました。さらに、オーム君が書いた絵は全国大会の 2 位になりました。

オーム君が中学校２年生のとき、WAFCAT は車いすと奨学金を提供しました。家族は不安を感じながらも、オーム君は WAFCAT の能力向上キャンプをきっかけにプラマハータイ・テクノロジー専門学校に進学し、同時にノン・フォーマル教育（高校過程）も履修しました。家族の心配や、大学の厳しい条件を、熱心さで乗り越え、ノース・バンコク大学の工学部に入学することができました。さらに大学は車いすのために、建物、スロープ、及びトイレを改善しました。オーム君自身が諦めなかったことと、家族や社会から与えられた機会のおかげで希望した自由な生活への道という教育を受けられました。

5 ネットワークの力、安定した歩み

WAFCAT はアカラポン・ループモー君（愛称アート）に歩き方の練習する機会を提供し、生活をサポートするトイレや舗装した床を支援しました。そして、その後も、ムッダーハーン県の特殊教育センターの先生がアート君の車いすの使用と生活に必要なスキルの向上をモニタリングしています。

「2004 年に WAFCAT がムッダーハーン特殊教育センターに連絡してから車いすを提供し続けています。2012 年にセンターは車いすが必要な障がい者をチェックする方法、座り方、車いすのタイヤの設定についてのトレーニングに参加しました。現在、我々は、WAFCAT、障がい者の家族、地域社会のネットワークと協力しながら、車いすや能力開発のためのサービスを提供できています。センターは家族、農村部自治体、地域のリーダーの間で連携の中心的な役割を担っています。」と、ムックダーハーン県の特殊教育センターの所長ワッシャラーポーン・ピュウカム氏はコメントしています。

「ムックダーハーン県の特殊教育センターから連絡があって、私は地域の人、地域のリーダー、農村部健康センターとミーティングを行いました。農村部健康センターはアート君の健康を担当しながら、地域の人々は家、トイレやスロープを作るのに協力してくれました。アート君の家族も皆さんに料理を作ってくれました。皆さんは喜んで来てくれました。自治体には家の修復予算が年間 120,000 バーツあります。支援対象者は障がい者、高齢者、助けが必要な人です。その他、我々は他のところから資金をもらっています。例えば、タイ赤十字、工場団地、社会開発・人間安全保障センター、無料センターです。我々は援助が必要な人を調査し、優先順を設定します。私たちが協力して限りある資金を使えば、障がい者にも権利と質の良い生活を提供することができると思います。」と、バーンソン自治体の会長ニラート・パントーン氏は述べました。

6 車いすサービスセンターのモデル、叶えた夢

サムットプラカーン県の車いすサービスセンタ

知識という武器を付けることへ

全体のセクタの参加へ

WAFCAT と特殊教育センターの車いすサービス提供は、障がいのある子どもの開発に地域社会と障がい者の家族が参加する CBR（地域に根ざしたリハビリテーション）という概念に基づく協力のもとに実施されています。

WAFCAT は障がいのある子どもが知識という武器を身に着けるよう支援しています。車いすを提供することは障がい児の生活の質を高めるプロセスの中で、一つの道具に過ぎません。教育は、自分の力を信じて仕事ができる道へ導き、生活の質を改善する基礎となるものです。

7 車いすの人のためのボランティア

ボランティアたちは様々な WAFCAT の障がい児支援活動に参加するために、時間、体力、費用を犠牲にしています。
おもなボランティア活動には、車いすの修理、トイレやスロープの改善工事、家の補修、障がい児ための教室などがあります。

成功のまとめ

「地域レベルの活動から・・・ネットワーク作りと政策提言まで」

WAFCAT はこの 20 年間、「車いすを通じて障がいのある子どもの成長過程の一部として、一人ひとりに適した車いす、トイレ、スロープ、手すりなどの設備を提供し、就職や自由な生活が得るための教育費などをサポートしてきました。WAFCAT の 20 年間の活動から学んだレッスンは、以下の通りです。

●障がいのある子どもが支障なく教育を受けることができ、自由に生活ができるように援助しました。例えば、パーティー君の場合は学校が環境やトイレを改善して、障がい者をサポートする方法を他の生徒に教えました。ウさんの場合は、片方の腕、小さな 2 本の指で両足がなくても車いすで学校に支障なく通うことができました。WAFCAT は、ウさんに奨学金、交通費、寮費、その他必要なものを提供しました。

ウさん

パーティー君

ドリームさん

オーム君

●家族は意識して障がい児の能力開発のプロセスに参加することが大事です。車いすをきっかけに生活の質を向上させるために、障がい者と家族が身体の障がいばかりに注目するのではなく、学習の過程や教育の大切さを理解するべきです。例えば、ウさんとお母さんも自ら義務を果たしました。お母さんは娘の夢を叶えるために学校への送り迎えをし、ウさんは勉強を頑張ったおかげで、もうすぐ（高等専門学校を）卒業できるまでになりました。ドリームさんもオーム君も重症筋無力症でも障がいの状態を乗り越えて、自由な生活のために教育の価値を認識しています。

バーンソン農村部自治体

●活動の協働ネットワークができました。バーンソン農村部自治体とのネットワークの事例では、障がいのある子どもの家と周囲の環境設備を改善するために、複数の関係団体が意見交換し、その過程においてスムーズに協働することができました。中心となったのはムッダーハーン県特殊教育センターで、経済的なサポートを要請するためにWAFCAT、バーンソン農村部自治体、ローカル団体、地域のリーダーの間をコーディネートしてくれました。このネットワークの好事例の結果として、アート君の自宅、トイレ、手すりと玄関口の舗装が改装され、生活の質を向上させることができました。

ノース・バンコク大学

ウボンラチャタニ・ラーチャパット大学

ムクダーハーン県の家の修復

●活動の協働ネットワークができました。バーンソン農村部自治体とのネットワークの事例では、障がいのある子どもの家と周囲の環境設備を改善するために、複数の関係団体が意見交換し、その過程においてスムーズに協働することができました。中心となったのはムッダーハーン県特殊教育センターで、経済的なサポートを要請するためにWAFCAT、バーンソン農村部自治体、ローカル団体、地域のリーダーの間をコーディネートしてくれました。このネットワークの好事例の結果として、アート君の自宅、トイレ、手すりと玄関口の舗装が改装され、生活の質を向上させることができました。

●サムットプラカーン県の車いすサービスセンターは、車いすサービス提供によって障がいのある子どもの自由な生活へつながる教育を習得させることを目指しています。センターは障がいのある子どもの生活の質の向上のために、地域社会のネットワーク、障がいのある子どもの家族の参加が重要だと強調しています。

サムットプラカーン県の
車いすサービスセンター

●様々な県で車いす修理サービス活動をはじめとするボランティア活動に参加する WAFCAT のボランティアグループ「Wheelchair Friends」には、デンソータイランドの社員、一般の方々が加入しています。

「Wheelchair Friends」
ボランティアグループ

成功の要因

スタッフ

- 障がい者や自分の仕事に好意的な態度を持つこと
- 熱心で献身的で微笑ましく人間関係が上手であること
- 新たな学びや変化に準備できていること

サポート

- タイ・デンソー・グループからの継続的な資金や物資のサポート
- タイ・デンソー・グループ社員のボランティア参加

作動プロセス

- 自由な発想と実行
- チームワーク
- WAFCAT の強い信頼関係
- 業務を系統的にして分担を明確にする
- サポートシステムがあること
- 良い福利厚生のシステム

ネットワーク・地域社会

- 明確にコーディネートすること
- スタッフを認めて信じること
- 協力すること

将来の活動の方向

1．成果の共有

フィールドワークの経験から得た様々な知識を広めることに努めます。例えば、障がいのある子どもに教育をサポートすることは一人ひとりの子どもの異なるニーズを考えなければならないため、地域社会、学校、特殊教育センターなど、その地域内での連携が必要です。そのため、1つの成功事例（成果）をタイの多くの地域に広げていきたいと考えています。さらに、障がい児者に適した車いすを提供するサービスの有効なプロセスと手段があることがわかってきたので、WHOの車いすサービスモデルを応用して成功事例を増やしていきたい。

2．モデルの発明

障がい者の具体的なニーズに沿ったサービスを提供できる車いすサービス・障がい者支援センターを発展させます。

3．持続可能性

教育は、障がいのある子どもたちが個々の能力や夢や希望によって将来仕事に就くために必要なものです。就学や通学を持続可能にするために障がいのある子どもが学習する動機付けを行う活動を提供したり、持続可能な仕事の様々な良いロールモデルを見せたりすることが大事です。

4．友情

友情はWAFCAの中心です。ボランティアたちの幸せは、障がいのある子どもと彼らの家族の笑顔を見ることや、様々な人たちがボランティア活動に参加して一緒に障がいのある子どもたちを助ける満足感から得られるものです。

次の歩み

車いすを通して障がいのある子どもの生活の質を改善するセンターのモデルを確立して、タイの社会にその系統的な仕組みを啓発していく。

WAFCAT 理事長

スポーンタム・モンコンサワッド氏

WAFCA の活動の概念を、農村部自治体や農村部健康センターをはじめとする他のネットワークに広げる。

WAFCAT 事務局長

ピナイ・シリナコーン氏

重度障がい者向けの車いすをデザインするなど、日本とタイの交流を活発化し、日本の知識を生かしてタイを発展させる。

WAFCAT 理事

ダラニー・スワパン

WAFCAT の知識体系を継続的に促進していく。政府と全体のセクターが具体的に働き合って WAFCAT モデルのサービスセンターを広める。

WAFCAT 理事

ソムポーン・ワーンセット

WAFCAT のミッションと支援モデルを他国に広げ、多国間のコミュニケーションを強化する。

WAFCA 事務局長（日本）

熊澤 友紀子

障がい児者の家族がもっと参加できるような取り組みを行い、WAFCAT の強みを生かす。

WAFCA 理事（日本）

寺田 恭子

WAFCAT

ที่อยู่ : มูลนิธิศูนย์มิตรภาพมนุษย์ล้อเอเชีย (ประเทศไทย) 369 หมู่ 3 ถ. เทพารักษ์ ต.เทพารักษ์ อ.เมือง จ.สมุทรปราการ 10270
Address : Wheelchairs And Friendship Center of Asia (Thailand) 369 Moo 3, Teparak Rd., Teparak Sub-district, Muang, Samutprakan Thailand
เลขประจำตัวผู้เสียภาษี 0993000303105 โทร. 02-7584646 ต่อ 2441-2442
e-mail : wafcatthai@gmail.com , www.wafcat.or.th , FB : www.facebook.com/wafcat.wafcatthai